

研修テーマ 国語科「言語活動を位置づけた単元構成」について
開催日時 平成27年8月3日(月) 9:00～12:00
実施場所 伯耆町立二部小学校
指導・助言者 鳥取大学 地域学部 小笠原 拓 准教授

1 研修の実際

① 講義 「魅力的な単元をめざす」

(国語科における単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり)

魅力的な単元となるためのポイントをおさながら、単元づくりの手順についての講義を受けた。①学習者の状況の把握(子どもが抱える課題)、②単元目標の設定の仕方(どんな力をつけたいか)、③学習活動の設定(ゴールを明確にし、逆算した課題の設定。見通しを持って学習を進められる導入。自分自身で学習が進められるための手引の作成。表現に開く展開など)、④教材の収集と選択(複数教材を扱う。)また、子どもたちの意欲を高めるためのワクワクするような学習活動や、思考の観点を示すための手引きづくり、その場でこそできる学習などの具体例を紹介していただいた。

② 演習 教材研究…2学期の説明文・物語教材を扱う単元づくり(低・中・高学年グループ)

・学級の実態とつきたい言語能力を照らし合わせ、ねらい達成に向けたより効果的な言語活動(単元のゴール)と学習活動の流れを意識した単元構成をどのように仕組むか話し合った。話し合う中で、適宜指導・助言を受けた。

○低学年1(1年生 物語文:中核教材「かいがら」)

・「登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子を想像しながら読むことができる。」(指導事項Cウ)を単元目標にした場合の言語活動について話し合った。その結果、自分だったら登場人物に対してどう思うのか考えたことを言葉にし、それを台詞に付け加えながらグループ独自の音読発表とすること、2年生や年長児に向けて紙芝居にして発表することにした。指導助言でも、いろんな交流活動を作っていくように話をされた。

○低学年2(1年生 説明文:中核教材「いろいろなふね」)

・部員の実践例を参考に、乗り物の役目とそのためのつくりや特徴などを読み札にまとめたカルタ作りを言語活動として、単元の流れを考えた。中核教材では、船を扱っているが、地域によっては子ども達にとってはあまり馴染みのない乗り物なので、最近のフェリー事故の様子を資料として提示するという考えが出た。また、子ども達にとって身近で、地域に根差した働く車を取り上げて、教材を作るのもよいとの助言を受けた。

○低学年3(2年生 物語文:中核教材「名前を見てちょうだい」)

・子ども達が好きな場面を演じるという活動はよくあるが、それを繰り返し発表することは見ている子ども達にとってもつまらないものとなってしまうことが多いという反省があった。そこで、補助教材として「えっちゃんシリーズ」の本を読み、えっちゃんに対しての想像を膨らませるようにし、会話部分の工夫に活かすこと、様子を表す言葉に着目し、文章をしっかり読んだうえで一番好きな場面を選んで、声の大きさや動き

のつけ方などを工夫して演じたものをDVDにするという言語活動を指導助言から考えた。

○中学年（４年生 説明文：中核教材「広告と説明書を読みくらべよう」）

- ・「～の取り扱い説明書を作ろう」という言語活動を位置づけ、まずは中核教材などを使って、広告と説明書を読み比べて特徴をつかんだり、いろいろな説明書を集めてその構造を知ったりする学習の流れを考えた。誰にPRする説明書を作るのかというゴールを明確にし、低学年には学校内の行事や用具の使い方、給食の配膳・片付けなど、地域の人には町の施設の使い方など、地域外の人には特産物の扱い方や食べ物などというように相手意識を持った学習を考えた。この説明書を作るための手引きが必要だという助言も受けた。

○高学年（６年生 物語文：中核教材「海のいのち」）

- ・「人物の考え方や生き方をつかみ、作品を通して強く感じたことや考えたことを太一の語りを通して、父への手紙にまとめることができる。」（指導事項Cエ）という単元目標で、子ども達につけたい力を「自分の気持ちが人前でも堂々と話せるようにする。」とした。初発の感想で心に残ったことや疑問をたくさん出させて整理し、学習課題にして学習計画を立てるようにしたり、内容をつかむところで関係図を使って人間関係を整理したりし、ペアやグループで課題について話し合ったり、手紙を交流し語り合ったりすることで、「友達はそう思っていたんだ。」「人と違っていいんだ。」と認め合うことができるような学習活動を助言をもらいながら考えた。

2 成果

講義や演習を通して、国語科における単元を貫く言語活動を位置づけた単元づくりについて理解が深まった。国語科の授業づくりについての考え方を共有し、情報交換し合うことで、今後も成果を積み上げていけると考えている。

また、児童の実態からつけたい言語能力を考え、ゴールを意識した単元の構成や学習材の活用の仕方などについて具体的なアイデアを出し合ったり、的確な助言をしていただいたりして、２学期の実践に向けて参加者がそれぞれに手掛かりをつかむことができた。

～研修後の感想より～

- ・学習の主体者である目の前の子どもたちの実態からスタートする教材研究の在り方、教材ありきではない捉え方の大切さを再確認することができた。
- ・子ども達を頭の中に浮かべながら、子ども達にどういう力をつけていったらいいか、どういう活動が有効か考えながら授業を考えていくことができた。
- ・児童の実態に合わせた単元構想、児童がわくわく感を持って取り組める活動になるように単元づくりをしていきたいと思った。
- ・魅力的な単元づくりのポイントの話を念頭に入れながら、２学期の授業研に向けて授業を組み立てていきたいと思った。
- ・以前担当した学年の時に、困っていた部分を相談できて、とても勉強になった。最後にとってもよいアイデアを助言していただき、ねらいとも子どもの意欲ともぴったり合い、すっきりした。